

会 議 録

(1 / 7)

会 議 の 名 称	令和8年度 第2回坂戸市市民参加推進会議
開 催 日 時	令和8年6月18日(木) 午後2時00分 開会 ・ 午後3時36分 閉会
開 催 場 所	坂戸市役所 2階 201会議室
議長(委員長・ 会長)の氏名	柳澤智美会長
出席者(委員)の 氏名・出席者数	久保彰子委員、矢島秀章委員、松林豊委員、 高橋奈穂委員、森川理江委員、島和男委員 計6名
欠席者(委員)の 氏名・欠席者数	なし
事務局職員の 職・氏名	市民部 福島部長、東次長 市民生活課 片野課長、徳永課長補佐、小澤主任、 仲村主任
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 審議事項 (1) 令和8年度坂戸市提案型協働事業について (2) 答申書(案)について (3) その他 4 閉 会
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 資料1 令和8年度提案型協働事業事前採点コメント一覧 ・ 資料2 令和年度提案型協働事業事前採点結果 ・ 資料3 提案型協働事業審査要領 ・ 資料4 答申書(案) ・ 参考資料 答申書(令和7年2月6日提出)

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 会長挨拶</p> <p>3 審議事項</p> <p>(1) 令和8年度坂戸市提案型協働事業について 令和8年度提案型協働事業採点結果について、資料1～3のとおり説明。</p>
事務局	
委員	最低点と最高点の差が広い団体もあるが、平均点を見ることが良いと思う。得点の順位は各団体へ知らせるのか。
事務局	委員からいただいたコメントは知らせるが、順位は知らせない。
委員	過去に提案型協働事業で採択された団体から聞いた話では、ボランティアの人手が不足、団体の方が体調を崩したということを知った。好きでボランティアをやらされているが、そういう方こそ様々なボランティアに参加し、体力の限界まで続けられている印象があるため、行政の支援があると団体も続けやすいのではないかと感じた。
会長	<p>ボランティアを増やすために、学生等に向けて団体の情報が流せるようになれば良いと思う。</p> <p>団体によっては学生のボランティアが大勢いる団体もあるため、人手不足の団体に人員が回るような取り組みがないか考えたい。</p>
委員	活動していく中で寄付金や食材をいただくことがあるが、その寄付金や食材を取りに行く人手がないという問題がある。
委員	ボランティア情報をまとめるホームページ等があれば人手不足解消につながるのではないかと感じた。
委員	ボランティアを募集できても、そのボランティアに指示を出せる団体スタッフが少ないのが現状である。書類の作成等は学生ボランティアでは難しいため、団体スタッフの時間が取られる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	この会議の委員となったことで、子ども食堂等のボランティアの問題に直面した。
委員	先ほどの寄付金や食材を取りに行く人がいないという話だが、商工会議所や企業に活動を周知して配達等を援助してもらうことはできるのではないか。
委員	フードパントリーは配達を無償でやってもらっているところもある。坂戸市内で大人のフードパントリーは1カ所だけである。
委員	食材の保管場所も懸念すべきだと考える。どこでもいいわけではないため、場所がないと保管ができない。
委員	大きい冷蔵庫を所持している団体はいないため、事業者等に頼らないと食材の保管ができない。坂戸市こども家庭センターに相談しているが、すぐに解決することは難しい。
委員	ボランティアにおいて、高齢の男性がコミュニティを形成するためにボランティアに参加しても良いと思う。 高齢の男性はコミュニティに属することが苦手で引きこもりがちになってしまうため、ボランティアに参加するようPRをすることでコミュニティを創り、相互利益が得られるのではないかと思う。
委員	過去に提案型協働事業で採択された団体が存続の危機と聞いたため、同じような活動をしているみんなの茶の間と協働することで、継続できるのではないかと提案した。
会長	団体間の繋がりがあると、続けやすくなると思ったため、横のつながりを大事にしてもらいたい。 ほかに意見がないようであれば、今年度に申請のあった4件を採択することで決定させていただく。
事務局	(2) 答申書(案)について 答申書(案)について、資料4、参考資料のとおり説明。
委員	諮問を受けて答申した後に、各課へ周知をしているのか。
事務局	全庁に向けて周知している。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>諮問を受けて答申したことに対してのフィードバックがないため、形式的な事務になってしまっているのではないか。答申したことで、市としてどのように取り組んだかについて、フィードバックがほしい。</p>
事務局	<p>直近であれば、市民コメントにおいて若い世代からの意見を聴取するため、城西大学への提案箱の設置や紙媒体だけではなく電子申請を使って、意見を提出しやすい環境を作る等を行ってきた。今後は委員に対してフィードバックを行う。</p> <p>また、市民参加の事務を行う中で、市民生活課に合議が回されるため、答申の内容が徹底されていない事務があれば指摘している。</p>
委員	<p>既に取り組まれているものに関しては、答申から除いていいのではないか。</p>
委員	<p>大学では、市民コメントに関する情報を共有してもらえれば、全学生に周知することができる。授業の中で説明し、関連する計画があれば学生に提出を促すことができるため、紙媒体ではなく、データで共有してもらえれば周知できる。</p>
事務局	<p>今後、前向きに検討させていただきたい。</p>
委員	<p>答申に基づいて、現時点では今後すべきことが具体的にリスト化できていないから、手交式が2月となっているのか。</p> <p>また、大学生への周知だけでなく、高校生にも周知できるのではないのか。さらに、公共交通機関への周知は具体的に内容が決まっているのか。答申に書いたからと言って、実行できるのか疑問である。</p>
事務局	<p>答申は市民参加推進会議にて内容を協議し作成するものであり、次回の会議が来年1月であるため、2月に提出する予定である。</p>
会長	<p>以前にさかちバス等で周知できればよいのではと提案したが、実現できなかった記憶がある。</p>
事務局	<p>掲示できるスペースが限られているため、実施できなかった。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	時間がかかるものとすぐに実施できるものを分けて記載した方が分かりやすいのではないかと。
事務局	答申に書いている内容をすべて早急に実施することは難しいが、ここでいただいた意見を答申に示すことで、予算化や事務の後押しとなる。
会長	今までも答申を行ってきた中で、急激な変化は難しいが徐々に変化していると感じる。
委員	大学の学園祭で坂戸市が出店しているため、そのような場面で市民コメント等の周知を行えるのではないかと。
事務局	学園祭の時期に市民コメント等を実施していれば周知できるよう今後検討する。
委員	インターネットは坂戸市民に限らず閲覧することができるが、市民参加の対象者が坂戸市民であるため、ピンポイントの周知についても答申に反映させていただきたい。提案型協働事業においては、新規団体が生まれやすいような広報を検討していかなければならないと考える。 また、社会人のボランティアについて、参加が少ない傾向があるため、隙間時間にボランティアを行うことで、自分の商売に活かせると分かれば参加する人が増えていくのではないかと。思う。 職員の意識向上について、意識がないのではなく、すぐに変化することが難しいのではないかと。その旨を答申に示してはどうか。
委員	市民コメントは何年かおきに実施されるものなのか。 また、実施期間の中で広報やホームページで市民コメントを実施している旨の周知を行っているのか。
事務局	そのとおりである。 計画策定に伴って実施されるものが多く、何年かおきに実施される。計画によっては5年計画のものもあれば、10年計画のものもあるため、一概に何年おきと定められているものではない。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	市民コメントを実施する際に、関係機関に幅広く周知する必要があるのではないかと考える。児童や子どものことに関する計画では、学校や保護者等に周知することで、身近に感じることができ、意見提出件数が増加する可能性がある。
委員	市民コメントにおいて、募集要項の全文が置いてあるだけでは、なかなか市民が読もうとしない。概要版、変更点やどのような意見を求めているか等を記載した資料があれば読んでもらいやすくなるのではないかと考える。
委員	市民コメントを提出するには、計画等を読み込み、意見を考えて提出することから、時間がかかりハードルが高いのではないかと考える。 市民コメントを提出したらポイントが溜まるような市民に対してメリットがある取組みを実施すれば、意見提出件数増加につながるかもしれない。学生も興味を示してくれるのではないかと考える。
委員	市民参加について、他人事ではなく自分事に考えられるような募集の仕方考えたほうが良い。
会長	以前は公募委員の応募者数が募集人数を下回る等、市民の関心の低さが課題であったが、現在は徐々に改善されていると感じる。しかし一方で、一部の提出者が何件も意見を提出している市民コメントも見受けられるため、意見が偏らないような対策が必要と考える。
委員	市の財政が厳しいのであれば、募金や寄付金等を検討するのはいかがか。
事務局	ふるさと納税等の一般的な寄付制度は実施しているが、近年で坂戸市がふるさと納税以外の募金等を実施した実績はない。
委員	提案型協働事業について、高校生は申請できるのか。
事務局	在籍する学校の教職員の関与があれば可能である。
委員	フォーラムやまちづくり市民会議は数年実施していないとのことだが、どのような流れで実施するのか。
事務局	それぞれの所管課が実施するか否か検討する。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	(3) その他 その他について、委員または事務局から何かあるか。
事務局	<p>次回の会議は、令和9年1月21日（木）に坂戸市文化会館にて開催予定である。主な内容は、本日御協議いただいた答申書（案）について、最終的な協議となるため、次回の会議までに新たに意見等がある場合には、事務局まで連絡いただきたい。また、市民参加推進会議後に、提案型協働事業報告会の実施も予定している。</p> <p>併せて、今後、採択団体が作成したチラシや事業計画などを市に提出していただく予定であるため、チラシ等が提出され次第、各委員へ送付する。</p> <p>見学等を希望する場合は、採択団体または事務局へ連絡をいただきたい。</p>
会長	提案型協働事業は何年目になるのか。
事務局	平成26年度から実施しているため、12年目となる。
会長	以前、提案型協働事業に申請があった団体の現在の活動状況は把握しているのか。
事務局	令和7年1月に調査をした結果、これまでに申請があった団体は24団体であり、そのうち18団体が活動継続中である。
会長	その結果を報告する場面はあるのか。比較的多くの団体が継続して活動しているため、坂戸市のPRとして、有効的であると考えます。
事務局	現時点では周知する場面はないため、提案型協働事業の促進として周知を検討していく。
	4 閉会